

財團法人明治聖德記念學會紀要總目錄

第一卷～第六十卷

明治聖德記念學會事務局編

第一卷（大正三年二月十八日）

三社託宣の歴史的及び批判的研究

星野日子四郎

羅馬興亡論

村川堅固

国民思想の統一

池田立基

先づ自己を知れ

南洋旅行談

小野孝太郎

——日本文明研究機関の整備を促す——

加藤玄智

滯米所感

姉崎正治

日本文明研究の必要

井上哲次郎

遠甲二州旅行の談片

加藤玄智

精神の修養と大和魂

高木兼寛

横浜よりエルサレムまで

コーツ

オロツコ族に就いて

鳥居龍蔵

余が膠洲灣滞在中の所見

山本 茂

日本に於ける義犬塚伝説に就きて

高木敏雄

武士と敬神

芳賀矢一

第三卷（大正四年四月三日）

明治天皇の御治蹟と世界の大勢

箕作元八

倭論語の神託に現はれたる宗教思想の位置

加藤玄智

日本の修身に就きて

林博太郎

三社託宣の歴史的及び批判的研究（承前）

星野日子四郎

来朝所感の一端

スタル

大嘗祭に就て

和田英松

越前、淡路、下野旅行瑣談

井上哲次郎

日本に於ける儒教の順応性

白鳥庫吉

姉崎博士の日本人の宗教感情論

池田立基

戦争と我国民の使命

深作安文

第二卷（大正三年十一月十日）

徳川慶喜公

萩野由之

三社託宣の歴史的及び批判的研究（承前）

星野日子四郎

道教概観

小柳司気太

日本仏教史上の特例

村上專精

独逸に於ける日本研究の近況

石橋智信

日本の修身に就きて（承前）

林博太郎

南洋旅行談（承前）

小野孝太郎

日本文化の支那に及ぼせる影響

服部宇之吉

日本文化の支那に及ぼせる影響（承前）

服部宇之吉

日本彫刻の特質

中川忠順

所感

五来素川

英仏独三国における宗教教育に就いて

保科孝一

現下の神社対宗教問題

荒井泰治

第四卷（大正四年十一月三日）

倭論語の本文批評的研究

熊沢蕃山の朝廷に対する考

和歌と戦争

道教の特質及び其影響

日本仏教の二大發達

我日本音楽の将来

余の觀たる孔孟の教

吾等民族の覺悟

山東の天地

欧米漫遊所感

仏教の威儀に就きて

大礼の要旨

Three Remarkable Example of Philanthropism in Japan

Genchū Kato

第五卷（大正五年五月十三日）

倭論語の本文批評的研究（承前）

支那陶器の研究を薦む

帝国憲法の特質

日本人の拳固力

戦時の独逸国民

西蔵文明の起源及現状

戦争心理の一節

宮本武蔵の精神術

白人の世界か黄人の世界か

露西亞の国民性に就きて

御大礼參列感話

神社对宗教問題の觀察一束

外人の觀たる三種の神器

第六卷（大正五年十一月三日）

巴利語と仏教

支那陶器の研究を薦む（承前）

日本医学史上より觀たる流行病

三百年以前の日米關係

台湾視察談

言語を説明資料とすること

純神道

村上式注意術と教育

何ものかはれ宗教

余の見聞したる米國

アームストロング氏著「日本儒教の研究」(R. C. Armstrong):

石川源三郎

河口慧海

速水 湜

福来友吉

中村久四郎

八杉貞利

林博太郎・柳田國男

道聴子

長井真琴

長井真琴

上田恭輔

富士川游

村上直次郎

後藤新平

藤岡勝二

田中義能

村上辰午郎

加藤玄智

服部宇之吉

清水 澄

松本亦太郎

Light From the East; Studies in Japanese Confucianism) を評す

姉崎正治

神社と祖先崇拜とに關する世論一瞥

栗原広廓

水戸彰考館神書目録抄本

雨谷 毅

ハーバード大学所蔵歐文神道書類

今岡信一良

Lines on the Accession to the Throne of H. I. J. M. Yoshi-Hito,

122nd Emperor of Japan

Charlotte M. Salwey

第七卷 (大正六年五月一日)

台湾人の宗教

丸井圭次郎

水墨画の起源及び価値

瀧 精一

何ものか是れ宗教 (承前)

加藤玄智

禊の実修

伊崎良熙

時局と国民の覚悟

白鳥庫吉

村上式注意術と教育 (承前)

村上辰午郎

言語を説明資料とすること (承前)

藤岡勝二

群衆心理

桑田芳蔵

日本音楽の発達

田辺尚雄

西蔵文明の起源及び現状

河口慧海

生物学上の遺伝に就きて

山内繁雄

日本労働者の生活状態

鈴木文治

神社問題に關する世論一瞥

栗原広廓

アームストロング氏著「日本儒教の研究」を評す

姉崎正治

Purport of the Principal Shinto Oracles : In the Warungo of

Japanese Analects (- the Japanese Bible)

Genchi Kato

第八卷 (大正六年十月三日)

山鹿素行子の聖教に就いて

山本信哉

古事記の性質及び其の編述の時代

安藤正次

同円異中心主義

吉田静致

未来の大乗

椎尾弁匡

生物学上の遺伝に就きて (承前)

山内繁雄

日本武士道と西洋武士道

高木 武

群衆心理 (承前)

桑田芳蔵

女性^(女)の心理

林博太郎

何ものか是れ宗教 (承前)

加藤玄智

安藤正次君の本講演に対する井上 (哲) 文学博士の批評

報道子

神道 第一回

ミシエル・ルザン著

田中経太郎訳述

第九卷（大正七年六月五日）

「神道」と云ふ語の用例に就きて

教育の力

平安朝貴族の生活

シヤマン教より見たる朝鮮の巫子

時局と国民性

仏蘭西に於ける伝統主義と日本

現代国民の飲酒と次代国民の体質

欧米宗教事情

高密城及其附近の旧蹟

須田飛燕君の倭論語に及ぼせる基督教の影響を讀みて

星野日子四郎

林博太郎

関根正直

鳥居龍藏

野田義夫

池田立基

片山国嘉

矢吹慶輝

青島一会員

星野日子四郎

精神病の境
犯罪の発生

真空の応用

基督教信者の日本大名

満鮮所見

第十一卷（大正八年五月三十日）

仮名の字源に就いて

現代の神社

特殊部落に就きて

犯罪の調節

土俗より見たる日本の民族

矢部駿河守定謙に就いて

科学と工業

泰山と曲阜

三宅鉦一
寺田精一

横山英太郎

M・スタイヘン

大山 柏

橋本進吉

宮地直一

遠藤隆吉

小河滋次郎

中山太郎

北条時敬

長岡半太郎

坂部正健

坂部正健

第十卷（大正七年十一月二十日）

「うしはく」と「しらす」てふ言葉の異同に就きて

伊能忠敬翁及び翁と同時代の先覚者

仏教の偷盜戒に就きて

明治天皇と聖徳太子

本地垂迹の原理

加藤玄智

大谷亮吉

長井真琴

黒板勝美

権田雷斧

第十二卷（大正八年十月十一日）

「しらす」と「うしはく」てふ語の異同に関する研究

豊太閣と大政所

平安朝時代の草仮名（伝貫之及び行成の筆に就きて）

最近に於ける地震学の諸問題

アイヌの神話に就いて

加藤玄智

渡辺世祐

尾上八郎

金田一京助

仏教渡来前に於ける国家組織と神道の成立

津田敬武

地方的迷信

井上円了

「はがくれ」と武士道との関係

湯原元一

古のギリシヤ人

田中秀実

第十三卷 (大正九年四月二十日)

本会に於ける「しらす」「うしはく」二語の研究開始に就きて

て (大正八年四月例会)

加藤玄智

我国体の特色を論じ「しらす」「うしはく」に及ぶ

井上哲次郎

「しらす」の語義研究と「よさす」の辞義

田中治五平

井上田中両君の所説中に含まるる矛盾の解除如何

加藤玄智

「しらす」と「うしはく」てふ言葉の異同に関する研究に就

きて (大正八年五月例会)

加藤玄智

古典の用例より観たるシラスとウシハク

河野省三

国語史上より見たる「シラス」と「ウシハク」

安藤正次

言語学上より見たる「シラス」と「ウシハク」

白鳥庫吉

「シラス」と「ウシハク」の対立双用上の意義

山本信哉

以上所説に対する批評

井上哲次郎

稲に関係ある列聖の御名に就きて

白鳥庫吉

河野君対井上博士の批評に就きて

加藤玄智

更に一言す

井上哲次郎

井上博士の漢字の「神」の字と「カミ」の語の関係に就きて

加藤玄智

神と鬼と天の関係に就きて

井上哲次郎

「シラス」と「ウシハク」の語義 (大正八年九月例会)

三矢重松

三矢君の批評に答へて「しらす」「うしはく」二語の異同輕

重に及ぶ

加藤玄智

三矢君の解釈を評す

安藤正次

安藤君の批評に答へて

三矢重松

「しらす」「うしはく」二語の表明せる根本精神を把拏せよ

寛 克彦

^(マ)人道的に考へたる「しらす」の意義

補永茂助

糧食問題

稲垣乙丙

亞米利加印度人部落の一瞥

村川堅固

第十四卷 (大正九年十一月二十日)

更に「しらす」と「うしはく」二語の異同に就きて

加藤玄智

昭憲皇太后陛下の御坤徳 (若葉のかけ)

下田歌子

音声の研究に就きて

佐久間鼎

文字と支那の社会

後藤朝太郎

栄養問題に就きて

永井 潜

欧米漫遊所見

後藤新平

南部九州及琉球所見

大山 柏

修養の一方法としての断食

宮坂喆宗

実践談を背景としたる労資強調に就きて

斎藤精一

思想界の動揺と我が国体観

本郷房太郎

THE HEIKE MONOGATARI

A.L.Sadler

SOME PRIMITIVE SURVIVALS IN OLD TESTAMENT

RELIGION

Clara Smith

第十五卷 (大正十年三月二十八日)

仏教と酒肉

長井真琴

「しらす」と「うしはく」二語に対する本居一派の態度

星野日子四郎

人種差別撤廃問題に就きて

下村 宏

聖徳太子小観

黒板勝美

日韓同治と朝鮮研究

持地六三郎

東照宮の造替に就きて

平泉 澄

基督教の神髓

今岡信一良

書籍目録に就きて

和田万吉

余の新宗教論

千家鐵磨

THE HEIKE MONOGATARI

A.L.Sadler

SOME PRIMITIVE SURVIVALS IN OLD TESTAMENT

RELIGION

Clara Smith

第十六卷 (大正十年九月十九日)

妙貞問答解題

阪本広太郎

神道の研究に就て

加藤玄智

環境と思想

市村瓊次郎

大和の国土

山崎直方

滞欧中祖国の思想界を回顧して

堀田正恒

徳川時代思想界の一面観

津田左右吉

ホルトム博士の神道の起源に関する研究

——諾冉二神の性質——

福原空露

ホルトム博士の諾冉二神に関する意見を聴きて

中山太郎

現代支那の孔子教

中村久四郎

自治生活の新精神

後藤新平

世界的一大秘密結社

今井時郎

The Ancient Japanese Sky-father and Earth-Mother

—— a Study in Shinto Origins ——

D. C. Holtom

第十七卷 (大正十一年四月十日)

上代漢民族の間に行はれたる儀礼と古代セミチック人種の

祭典との比較研究

上田恭輔

大御心

芳賀矢一

教育勅語の形式

紀平正美

世界改造に関する国字問題

田中館愛橘

信仰に関する家紋

沼田頼輔

大祓詞に現はれたる罪悪感と其の価値

津田敬武

判官鼻眞

藤村 作

我国の湖沼と其経済的価値

田中阿歌麿

産業革命と人心の動搖

上田貞次郎

帝王学の教科書三代御記

阪本広太郎

鎌倉時代と明治大正時代の建築

関野 貞

バビロニアの神政主義

原田敬吾

明治の法律と法律学

穂積重遠

西伯利亞ブリヤート地方旅行

鳥居龍蔵

余の試みたるアルプス山アイガー東尾根よりせる初登攀

植 有恒

富士山と富士講

エフ・スタル

THE ANCIENT JAPANESE SKY-FATHER AND EARTH-
MOTHER — A STUDY IN SHINTO ORIGINS —

余の見聞せる南米

藤崎三郎助

THE ANCIENT JAPANESE SKY-FATHER AND EARTH-
MOTHER — A STUDY IN SHINTO ORIGINS —

D. C. Holtom

無差別に使用したり

加藤玄智

SCHAMANISMUS

Von Barathosi Balogh Benedek

THE ANCIENT JAPANESE SKY-FATHER AND EARTH-
MOTHER — A STUDY IN SHINTO ORIGINS —

ERETZ YISRAEL

E. A. Gordon

POEMS MADE ON THE ROYAL VISIT OF JITÔ TENNÔ

D. C. Holtom

《御影講演》

E. A. Gordon

THE SHRINE OF YOSHINO BY HITOMARO

E. F. Speight

開会の辞

嘉納 純

POEMS MADE ON THE ROYAL VISIT OF JITÔ TENNÔ

日本の天然と国民性

石橋五郎

THE SHRINE OF YOSHINO BY HITOMARO

E. F. Speight

我が国家の成立と現代思潮の趨勢

加藤玄智

第十八卷 (大正十一年十月五日)

E. F. Speight

第十九卷 (大正十二年三月二十日)

山口銳之助

古語拾遺所載御歳神の祭祀に就いて

星野日子四郎

陵の祭と陵の神の宮

山口銳之助

欧米の教育現況視察

林博太郎

明治の法律と法律学 (承前)

穂積重遠

我が古代国民の自覚

岡田正之

ハワイの土俗に就きて

藤岡勝二

日本古代船舶の型式

西村真次

和歌と皇室

武島又次郎

神道研究書目草案

蜷川龍夫

THE ANCIENT JAPANESE SKY-FATHER AND EARTH-

MOTHER — A STUDY IN SHINTO ORIGINS —

D. C. Holtom

SCHAMANISMUS

Von Barathosi Balogh Benedek

第二十卷 (大正十二年七月二十日)

言語と文字にあらはれた我が国民性

安藤正次

神社の発達に関する一觀察

黒板勝美

ハワイの土俗に就きて (承前)

藤岡勝二

日本古代船舶の型式 (承前)

西村真次

国文学と註釈

島津久基

親鸞の人格及び其の首張

鷲尾順敬

文化交渉の心理

桑田芳蔵

文人画の真価

大村西崖

欧米より見たる日本

植松 安

東西の東洋学者に就て

白鳥庫吉

価値組織

鹿子木員信

SCHAMANISMUS

Von Barathosi Balogh Benedek

A MOUNTAIN CLOUD AT DAWN

Frances Burnett

第二十一卷 (大正十三年六月五日)

震災に由つて出現した日本最古の橋脚

沼田頼輔

神話構成の決定要因としての社会現象

松村武雄

熊沢蕃山の教育意見

春山作樹

明治時代建築の⁽²⁾新歩

伊東忠太

維新前後の琉球の社会状態

東恩徳寛惇

今後の東京の地震について

今村明恒

大震災と青年団

宮川仁蔵

古語拾遺関係書目

加藤玄智・星野日子四郎

SONG IN CELEBRATION OF THE RECENT IMPERIAL

WEDDING OF THE PRINCE REGENT AND PRINCESS

NAGAKO C. M. Salway

SCHAMANISMUS

Barathosi Palogh Benedek

第二十二卷 (大正十三年九月二十五日)

朝鮮沿岸の築城市群——文祿慶長役史蹟の研究——

伴三千雄

日本の数学

三上義夫

三蔵とは何ぞや

長井真琴

台湾生蕃の土俗学的研究

後藤朝太郎

日本基督教各派の現況

相原一郎介

万国博覧会参加五十年

平山成信

土人保護の事業

柳田國雄(マ)

明治時代に於ける社会意識の発達

綿貫哲雄

富嶽に登りて

柴田孫太郎

ON THE HISTORICAL BOOK KOGOSHUI

Genchi Kato

第二十三卷 (大正十四年五月二十五日)

古事記に見えし植物

白井光太郎

尾張国府宮の直会祭と人身御供及び追儺

加藤玄智

日本と漢学の思想

小柳司氣太

唐代の文献より観たる正倉院御物

原田淑人

歴史に現はれたる統合の力

大類 伸

思想善導の第一原理

広井辰太郎

新武道の国際的運動に就いて

高島平三郎

南洋旅行記

宮坂光次

THE IDENTIFICATION OF CHINESE PHOENIX

M. U. Hachisuka

第二十四卷 (大正十四年八月十五日)

鈴木重胤の真人物

樹下快淳

古語拾遺所載御歳神の祭祀に於ける白色動物に就きて

星野日子四郎

精神的信条と経済的目標

寺島成信

新武士道の国際的運動に就いて

高島平三郎

念仏往生の教義の発達

望月信亨

THE PRESENT CONDITION OF BUDDHISM

James B. Pratt

NOTES ON SOME SHRINES DEDICATED TO CERTAIN
KAMI OR JAPANESE HUMAN GODS DURING ACTUAL

LIFE TIME OF DR. D. C. HOLTOM

Genchi Kato

第二十五卷 (大正十五年四月十日)

万葉集概説

次田 潤

古語拾遺所載御歳神祭祀に見えたる動植物に就きて

星野日子四郎

念仏往生の教義の発達 (承前)

望月信亨

今日に処するの道如何

深作安文

宗教としての神道の深さと世界の模範としての日本

千家鐵磨

天明の狂歌に就て

野崎城雄

宗教的方面より見たる台湾の民族性

丸井圭治郎

過失罪に就て

趙 欣伯

「バルカン」に於ける三王国王室の由来と其の国民の關係

堀口九方一

故ゴルドン夫人の思出

佐伯好郎

伊豆大島見聞記

法月俊郎

当主藤崎三郎助君の答辭

SHOTOKU-TAISHI, A GREAT EDUCATOR IN EARLY

《食卓追憶談》

JAPAN

Ji-yen Rikimaru

藤崎君と本会の事業

加藤玄智

故人の義侠心

榎 武

第二十六卷 (大正十五年九月五日)

有趣味なる故人の人格

根岸練次郎

浄土真宗沖繩開教前史

凶南鵬翼の大志

堀口九万一

——仲尾次政隆と其背景——

伊波普猷

商利を超越せる真商

宮川仁藏

現代的神社

今岡信一良

故本会理事藤崎三郎助君略歴

航空心理

田中寛一

日本上代に於ける宗教的遺物

高橋健自

布哇の日本人

浅野孝之

静寛院宮に対する国民の感謝

樹下快淳

大邦日本の理想

大川周明

回教主問題

内藤智秀

予が見たる最近の露西亜

八杉貞利

Gedanken über das Japanische No-Drama

W. Gundert

欧州戦争後に於ける物価貨幣為替問題の概観

河津 暹

故本会理事藤崎三郎助君略歴

一記者

第二十八卷 (昭和二年七月二十三日)

SHOTOKU-TAISHI, A GREAT EDUCATOR IN EARLY

杭上家屋の研究

宮坂光次

JAPAN

Ji-yen Rikimaru

古語拾遺新註の著者池辺真榛大人の生涯

坂本章三

第二十七卷 (昭和二年六月五日)

日本鳥類の分布に就いて

黒田長礼

古語拾遺所載御歳神祭祀に見えたる動植物に就きて (其二)

東方仏教の本質及伝統

鷲尾順敬

星野日子四郎

Gedanken über das Japanische Noo-Drama

W. Gundert

星野日子四郎

芸術に於ける模倣と創始

松本亦太郎

第二十九卷 (昭和三年四月十八日)

本邦上代の仏教に就て

瀧 精一

池辺真榛大人の名著「古語拾遺新註」自序の発見

加藤玄智

国民的英雄の理想化

高木 武

南朝回顧の思想

中村孝也

マヅダ教の原典に就いて

荒木 茂

明治時代の力

河野省三

聖徳太子と神道的精神

土田誠一

THE GREAT MEIJI TENNO

William Eliot Griffiths

謡曲の拍子組織に現れたる国民性

山崎静太郎

第三十一卷（昭和四年四月五日）

加藤玄智

琉球の祭式舞踊に就いて

伊波普猷

生祠谷神社の由来

久松潜一

大津事件の回顧

沼波武夫

古典文学と近世歌論との関係

石田茂作

社会的生活条件と知能の発達

桐原葆見

那智発掘物の仏教文化史的の価値

八束清貴

米国の国家主義と我が国体

津田敬武

大札に現れたる国民性

岡田朝太郎

衛生学上より視たる南米

石原喜久太郎

川柳と法律

倉橋惣三

我邦の気候と古代建築物の構造及皇陵

川村精一

社会的児童問題の輪郭

大村桂巖

川村理学博士の講演を聴きて

山口鋭之助

宗教々育の長短

山口察常

余が少年保護事業の過去三年間の回顧と将来の希望

橋本勝太郎

支那の文献に現れたる日本

川本宇之介

ON THE SINGLE VERSE POEMS OF THE JAPANESE;

弁才天の信仰

大山公淳

RANGING FROM SEVENTEEN TO THIRTY-ONE

ENTHRONEMENT CEREMONIES

Richard Ponsonby Fane

SYLLABLES: KNOWN AS HOKKU, HAikai, AND

MEXICO AND CATHOLIC CHURCH

J. W. T. Mason

TANKA

Richard Ponsonby Fane

第三十卷（昭和三年八月十日）

第三十二卷（昭和四年九月十八日）

林田守隆翁の生祠

加藤玄智

御巫清直大人と大神宮本記帰正鈔

加藤玄智

大嘗祭の精神

佐伯有義

中央亜細亜探検の成果概観

石川幹之助

水戸義公と其の修史事業

深作安文

伊勢神宮特殊神事

江見清風

明治天皇御治政の初期

藤井甚太郎

THE JAPANESE INTO ENGLISH

M. Sakurai

満州の古今

上田恭輔

寿府の世界宗教大会に出席して

友枝高彦

第三十四卷 (昭和五年九月五日)

PAINTERS OF JAPAN

C. M. Salwey

生祠巡礼

加藤玄智

AINIGE JAPANISCHE BRÄUCHE IM LICHTE

VERGLEICHENDER VOLKSKUNDE Lily Weiser Aall

欧米教育の現況

林博太郎

第三十三卷 (昭和五年四月八日)

神の自覚に住して自ら生祠を設けた松平樂翁公

加藤玄智

古神道に関する一考察

黒板勝美

東西文化連続の实例

西村真次

大祓の詞に現れたる祓の思想に就て

御巫清勇

日本古代文化精神と希臘美術

団 伊能

日本温浴の史話

中桐確太郎

朝鮮の教育——特に其芸術教育に就て——

笹川種郎

近世に於ける森林経済と林政

鳥羽正雄

産土神制度より古社と後世勧請社との關係を考ふ

太田 亮

醍醐天皇と其一千御遠忌

中村直勝

神社の宗教的価値

神崎一作

故文学博士栗田寛先生遺著古語拾遺棧威男健を読む

本多五陵

回教徒の生活及メツカ巡礼に就て

田中逸平

敷田年治大人の業績と人物

梅田義彦

神宮式年遷宮に奉仕して

星野輝興

The Meiji Era and the Emperor of Japan Ernest W. Clement

一記者

伊勢神宮御遷宮祭に供奉して

角南 隆

Abstracts of the Articles Translated from the Japanese into English

S. Ono

SIR ERNEST SATOW

D. C. Holton

第三十五卷 (昭和六年四月十日)

増田福太郎

PAINTERS OF JAPAN

C. M. Salwey

台湾人固有宗教の特徴

佐藤鶴吉

WHAT I MEAN BY CULTURE

George V. Blue

西鶴の描いた金の文学「日本永代蔵」

大沼盾雄

ABSTRACTS OF THE ARTICLES TRANSLATED FROM

干支に就て

甲州都留郡の人民生前より代官江川坦庵大人を祭祀す

加藤玄智

最近支那発見の古人類に就て

松村 瞭

八代將軍徳川吉宗公の治績に就て

三上参次

教育勅語と現代の教育

大瀬甚太郎

予の仏典批判

長井真琴

精神立国と武徳の鍛錬

本郷房太郎

SONGS AT A SACRED ISLE IN THE INLAND SEA OF

JAPAN

Laurence Binyon

SYMBOLISM IN THE ART AND LIFE OF THE JAPANESE

C. M. Salwey

ABSTRACTS OF THE ARTICLES TRANSLATED FROM

THE JAPANESE INTO ENGLISH S. Ono

第三十六卷(昭和六年九月五日)

台湾人固有宗教の特徴(承前)

増田福太郎

干支に就て(承前)

大沼権雄

岩倉具視公の生祠岩倉神社

加藤玄智

八代將軍徳川吉宗公の治績に就て(承前)

三上参次

日本庭園の型の発達に就いて

田村 剛

釈潮音に対する一面観

梅田義彦

吉田松陰の研究に就て

広瀬 豊

正徳、利用、厚生

鎌田栄吉

KAMPEI TAISHA TO SONO GOSAJIN OR THE FIRST

CLASS GOVERNMENT SHRINES AND THEIR DEITIES

Richard Ponsoby Fane

THE APPRECIATION OF JAPANESE ART IN AN

AMERICAN MUSEUM Dorothy Blair

ABSTRACTS OF THE ARTICLES TRANSLATED FROM

THE JAPANESE INTO ENGLISH S. Ono

第三十七卷(昭和十年四月一日)

御成敗式目に就いて

植木直一郎

支那古代の数学

三上参次

浮世絵に就いて

藤懸静也

神觀念の發生に関する古代心理

原田敏明

吉川惟足と津軽信政公

外崎 覚

修験道概観

大三輪信哉

日本の刀剣装具に及ぼせる欧羅巴の影響

ボクサー

日本古代の研究に就いて

アグノエル

日本に於ける生祠設立の年時と其分布

加藤玄智

嗚呼故神宮皇學館教授三上左明学士

かげ生

KAMPEI TAISHA TO SONO GOSAJIN OR THE FIRST

CLASS GOVERNMENT SHRINES AND THEIR DEITIES

Richard Ponsonby Fane

東洋の宗教史が西洋学者に投じたる二大謎問

加藤玄智

INCENSE AND INCENSE-BURNERS C. M. Salwey

潜める力の尊く現はれたる姿を瞻仰して

田中清純

ABSTRACTS OF THE ARTICLES TRANSLATED FROM

SONG IN CEREBRATION OF THE BIRTHDAY OF THE

THE JAPANESE INTO ENGLISH S. Ono

EMPEROR MEIJI C. M. Salwey

SHINTO INFLUENCE ON JAPANESE CULTURE

第三十八卷 (昭和七年九月十日)

J.W.T.Mason

六国史の編修及古写本に就きて

ABSTRACTS OF THE ARTICLES TRANSLATED FROM

明治天皇と藤波言忠子爵 西 忠義

THE JAPANESE INTO ENGLISH S. Ono

生祠義斎明神に就いて 富士川游

蘭学の内容と蘭学者の態度 坂沢武雄

第三十九卷 (昭和八年三月十五日)

古事記神話と創世記 ワノフスキー

戸隠山修験一実靈宗神道に就て 小林健三

紅海沿岸に在る国々特にエチオピアに就いて

台湾に於ける二三生祠の実例

李 添春

神皇正統記に就きて 黒木時太郎

心学の本領

早野元光

太平記の名義及びその生成発達変遷の由来 星野日子四郎

国民道德史より観たる本居宣長

巨野章三郎

琉球諸島言語の実相 高木 武

我が国美術の変遷を述べて芸術の社会的使命に及ぶ

津田敬武

近世の森林経済に於ける上方の特色 宮良当壮

日本宗教の現勢

桜井 匡

神と命 鳥羽正雄

欧米諸国に於ける明治史料の蒐集行脚

藤井甚太郎

剣の信仰と八岐大蛇 原田敏明

ファッショと東洋思想の進出

五来欣造

神の悪魔要素 宮坂光次

上海出動所見

稲垣孝照

明治聖徳記念学会の設立を回顧して 溝口駒造

古語拾遺に於ける掃守の訓み方

溝口駒造

征夷大將軍の泥中跪拜 宮川仁蔵

伊豆三島大社の御祭神に就て

石井広夫

樹下快淳

本会二十周年記念祝賀会記事

QUELPART ISLAND

C.M. Salwey

FOUR OUTSTANDING FEATURE OF SHINTO

Genchī Kato

ABSTRACTS OF THE ARTICLES TRANSLATED FROM

THE JAPANESE INTO ENGLISH S. Ono

第四十号 (昭和八年九月五日)

念仏上人子引歌のアイヌ語に就いて

金田一京助

本多忠籌公の生祠

加藤玄智

明治天皇の御孝心

上野竹次郎

明治時代の文学及其後文壇の種々相

千葉龜藏

遼の古都を尋ねて

鳥居龍藏

神社の本質

阿部国治

日本人の神木崇拜

ホルトム

農村問題の重点と其対策

笠森伝繁

越中鶴坂神社の尻打祭

小直矩

OHOYAMATO JINJA

R.A.B. Ponsoy Fane

ON THE SHINTO FESTIVAL JINZAI-SAI

Akira Asayama

ABSTRACTS OF THE ARTICLES TRANSLATED FROM

THE JAPANESE INTO ENGLISH S. Ono

第四十一卷 (昭和九年三月二十五日)

近世仏教神道と日本精神

——戸隠山修験神道の考察を中心とせる——

神道に於ける自然神の研究

小林健三

北畠親房の史観

佐伯有義

万葉集研究の新傾向

平泉澄

協能の二三に就いて

次田潤

日本天台と一実神道の教義

阪元三郎

世界の動きを見て

田島徳音

印度緬甸仏蹟旅行所見

小尾範治

家理教に就いて

長井真琴

SONGS IN CELEBRATION OF THE BIRTH OF THE

IMPERIAL CROWN PRINCE OF JAPAN C.M. Salwey

FOUR OUTSTANDING FEATURE OF SHINTO

Genchī Kato

MY ART PILGRIMAGE IN EUROPE

D. Blair

ABSTRACTS OF THE ARTICLES TRANSLATED FROM

THE JAPANESE INTO ENGLISH S. Ono

第四十二卷 (昭和九年九月十五日)

台湾に於ける最近の大衆爺神前裁判事件

増田福太郎

神道に於ける自然神の研究 (承前)

佐伯有義

明治天皇の聖蹟と御聖徳

西郷從徳

建武中興と知識階級特に社寺

星野日子四郎

明治初年の皇道復興と長谷川昭道

飯島忠夫

天満宮崇敬と潜伏吉利支丹

藤里好古

支那に於ける西洋的画風と畊織図

中山久四郎

星野日子四郎君の浮世絵研究に就て

藤懸静也

星野朝陽先生に就ての追憶

大沼盾雄

友人星野君を憶ふ

ペツオルト

星野朝陽先生の逝去を悼みて

玉置照信

故星野学士の思ひ出

三上参次

故星野日子四郎君の学風

長井真琴

故星野日子四郎君の業績

加藤玄智

INFLUENCES HELLENISTIQUES DANS L'ART

J.Hackin

ABSTRACTS OF ARTICLES

S. Ono

第四十三卷 (昭和十年三月五日)

朝鮮の風水信仰

金 孝敬

竊視禁止の伝説としての狩野永徳の画ける鶴の絵

出口米吉

山鹿素行先生に就いて

深作安文

山鹿素行先生の国体観

村田英彦

建武中興と神国思想

中村孝也

余の奄美十島に視たる宗教

宇野円空

音楽より見たる南洋島民の文化

田辺尚雄

鈴木重信撰葦水翁行状の發見と大山為起の生祠

加藤玄智

余の貧兒教育二十年

古関蔵之助

NIBUKAWAKAMI - JINJA

Richard Ponsonby Fane

ABSTRACTS OF ARTICLES

S. Ono

第四十四卷 (昭和十年九月二十五日)

台湾本島人の宗教

増田福太郎

明治天皇御聖徳の一面

須長真彦

越前立石浦に於ける酒井忠勝公の生祠

加藤玄智

チャンバレン先生の想ひ出

岡倉由三郎

旧友チャンバレンの終焉を報ずるポラー秘書の書翰を手記

ステewart

TO ADMIRAL TOGO, JAPAN'S GREATEST NAVAL

VICTOR C.M. Salwey

YASOSHIMA NO MATSURI R.A.B. Ponsonby Fane

TRIBUTE TO THE LATE PROFESSOR B. H. C.B. Samson

CHAMBERLAIN S. Ono

ABSTRACTS OF ARTICLES

第四十五卷（昭和十一年三月二十日）

方言学上より観たる琉球諸島の言語

宮良当壮

温泉利用と国民性

西川義方

明治以後の美術

脇本十九郎

憲法二十八条信教の自由の解釈に就いて

安東正臣

駐独感想

永井松三

皇帝の側近より眺めたる満州帝国の建国創業

石丸志都磨

仙石子、レビ教授、ステワート三君に献ずる哀悼の辞

林博太郎

故仙石子爵を追悼す

関屋貞三郎

故ステワート君との辱交

加藤玄智

THE FUNDAMENTAL IDEAS OF KUROZUMI MUNETADA

AND THEIR SOURCES

C. W. Hener

A TENTATIVE TRANSLATION OF THE KODŌKWANKI

Genchi Kato

LE PROFESSEUR SYLVAN LEVI

Genchi Kato

A TRIBUTE TO THE MEMORY OF THE LATE JAMES STEWART

Léon Juliot de le Morandière

ABSTRACTS OF ARTICLES

J. B. Mason

S. Ono

第四十六卷（昭和十一年九月二十五日）

一実神道に於ける僧慈遍の学説

鎌田良賢

山鹿素行と貴田元親に就いて

木村定三

親しく拝し奉りし明治天皇の御敬神

佐伯有義

有栖川宮家と皇室

福井久蔵

聖徳太子の三教義疏に就いて

花山信勝

極東史上に於ける満州の歴史地理

白鳥庫吉

宗教々答答申案に就いて

入沢宗寿

葡国の親日詩人モラーエスの人物と作品

会田慶佐

ナチス独逸に於ける宗教紛争

相原一郎介

ブラジルに於ける日本移民と宗教

野田良治

KODOKUWANKI Translated by R. A. B. Ponsonby Fane

MY RECENT TENTATIVE TRANSLATION OF THE

KODŌKANKI, REVISED Genchi Kato

ON THE CLASSIFICATION OF BUDDHISM Burno Perzold

第四十七卷（昭和十二年四月十五日）

台湾北ツオウ族に於ける神靈及びタブーの観念

増田福太郎

神社漁業史序説

祝 宮静

明治政教の真諦

中島忠利

太吾上人高井前證師の両生祠

加藤玄智

宮号の沿革

芝 葛盛

仁と慈悲博愛

山口察常

熱河遺跡保存の急務

伊東忠太

富士山信仰に就いて

井野辺茂雄

大僧都乗因略伝

鎌田良賢

藤田幽谷の筆写せる「琉球神道記」に就きて

福田耕二郎

ポーネル氏序訳神皇正統記(第一卷)を読む

伊東謹一郎

A PROPOS DE TCH' E-CHOUAI

M.C. Hagenauer

DR. GENCHI KATO'S MONUMENTAL WORK ON SHINTO

ABSTRACTS OF ARTICLES

Daniel C. Holtom
S. Ono

第四十八巻(昭和十二年九月)

財団法人明治聖徳記念学会創立二十五年に際して明治天皇

の聖徳を讃頌しまつりて詠める

佐伯有義

本多忠篤公生祠の由来と其郷蔵に就いて

黒田源六

明治天皇の聖徳に就いて

——広島大本宮御滞在当時を謹述——

藤岡継平

新に南洋を視察して

一條実孝

本会二十五年史

宮坂光次

THE ORIGIN OF THE ESTABLISHMENT OF THE

KODOKWAN TRASLATED INTO ENGLISH

ABSTRACTS OF ARTICLES

S. Ono

第四十九巻(昭和十三年五月十五日)

平田篤胤伝の再検討

渡辺金造

神社に関する二三の問題

岡田包義

初転法輪寺の壁画と南北仏教

野生司香雪

マレーの竹取物語

宮武正道

本会設立二十五周年記念欧文論纂要旨紹介

伊藤謹一郎

《會員本尊美翁追憶講演》

哀悼の辞

林博太郎

我れ將に兜を脱がんとす

星野輝興

本尊美翁の日本研究と其人格

加藤玄智

本尊美先生性格の一面

尾野 稔

本尊美翁を憶ふ

大谷 登

DR. RICHARD PONSONBY FANE AND THE "KINGLY"

WAY
Thomas Baty

OBTUARY NOTE

Richard A. B. Ponsonby Fane

本学会二十五年史補遺

UNU KARAKYTERIZA TARAJTO PRI LA RELIGIECA

SPIRITO DE LJAPANA POPOLO KONSIDERITA EN
INTIMA DIGITECO KUN ĜIAJ NACIAJ INSTITUCIOJ

KAI ILUSTRITA PER LA ŠINTO-O (STUDO SUPER LA
NACIA REALIGIO DE LJAPANOJ) Genči Katoo

KUROZUMI MUNETADA AS A PATRIOT C.W. Hepper
ABSTRACTS OF ARTICLES 小野清一

第五十卷 (昭和十三年八月十五日)

古事記日本書紀及旧事本紀の比較研究

心学思想の変遷

風土記に就て

通信史概説

一宮巡詣記第一卷全文の発見

本会設立廿五周年記念邦文論纂要旨紹介

メナンカバウ語文法概略

THE BRIEF HISTORY OF YASUKUNI-JINSHA

Momoki Kamo

ABSTRACTS OF ARTICLES

DR. GENCHI KATO'S MONUMENTAL WORK OF MORE S. Ono

THAN TEN YEARS OF PAINTSTAKING RESEARCH: A

BIBLIOGRAPHY OF SHINTO D.C. Holtom

第五十一卷 (昭和十四年五月二十五日)

明治川神社の末社伊佐雄社の生祠と其特色

加藤玄智

一宮巡詣記挿図集

貴田元親の武教全書解説に就て

日本精神と美術

鈴木重胤大人の神祇崇敬に就いて

回教徒問題に就いて

余の注意を惹ける二名著

本会編纂の神道書籍目録

EIN CHARAKTERISTISCHER ZUG DES RELIGIÖSEN

GEISTES DES JAPANISCHEN VOLKES Genchi Kato

第五十二卷 (昭和十四年九月十日)

明治天皇御物奉祀の神宝神社

明治天皇聖徳遺薫「君の御蔭」に就て

——故丸山正彦広島大本營謹記——

孫悟空の示唆と時局

相模愛甲郡のサイトバラヒ

基督教が東洋伝道史上に遭遇せる難問題

ハミッチュ博士の独訳・倭姫命世記を読む

KÖDÖKWANKI: ÜBERSETZT UND MIT ANMERKUNGEN

VERSEHEN Horst Hammitzsch

ABSTRACTS OF ARTICLES S. Ono

松下松平

木村定三

藤懸静也

樹下快淳

大久保幸次

十八公学人

坪谷水哉

Genchi Kato

加藤玄智

渡辺金造

池田 栄

武田久吉

前島 潔

伊藤謹一郎

伊藤謹一郎

Horst Hammitzsch

S. Ono

第五十三卷（昭和十五年五月二十日）

紀元二千六百年を言寿き奉りて詠める歌并に反歌

佐伯有義

松下松平

森口奈良吉

宮良当壮

李 添春

久松潜一

台湾仏教の特質

日本文学に於ける情と理

研究会評釈坂翁大神宮参詣記を読む

ON THE TWO JAPANESE DANCES: KUMEMAI AND TŌKA

Perkins and Keitchi Fujii

ABSTRACTS OF ARTICLES S. Ono

第五十四卷（昭和十五年十月二十五日）

旧事紀訓解の解題（承前）

アルタイ諸語の研究

過去七仏と古典の神々

——年代的神本仏迹説の一考察——

聖岡の神道論に就いて

橘三喜が諸国一宮へ奉納したる中臣祓

余の伝承せる明治天皇の御聖徳に就いて

明治開国以来の思想推移に見る我が国民性

六百年前の参宮紀行

——加藤博士の坂翁大神宮参詣記——

ABSTRACTS OF ARTICLES

神武道の本質

第五十五卷（昭和十六年四月二十五日）

歴史地理学の諸問題——支那古地理学の考察——

武家時代文学と日本精神

台湾に於ける国語の教育

儒教の宗教性に就て

行を中心として観たる儒教

旧事大成経伝授者長野采女の伝記に就いて

北越雪譜の著者に就いて問はれて

THE RELIGIOUS MENTALITY OF THE JAPANESE

PEOPLE

ABSTRACTS OF ARTICLES

BOOK REVIEW

第五十六卷（昭和十六年九月二十五日）

日本書紀の撰修について

日本書紀の撰修について

沢 宣一

皆川治広

福田謹四郎

M. Izumikawa

佐藤堅司

丸茂武重

野村八良

安藤正次

藤沢親雄

山口察常

嵐 瑞澂

高野正治

Genchū Kato

S. Ono

坂本太郎

普門律師の梵曆運動と師の略伝
惟神考

工藤康海

——孝徳天皇紀を中心として——

安津素彦

肥後に於ける加藤清正に対する信仰

近藤喜博

明治天皇の聖徳を偲び奉りて恤憐の道を論ず

高田真治

教育勅語の御精神と国民の覚悟

——昭和十五年に教育勅語渙発五十周年を迎へて——

林博太郎

旧事紀訓解の旧蔵者六人部節克の伝記資料

松下松平

昭和十六年玉銚会の展覧古語拾遺

佐伯有義

LATE J.W.T. MASON

Noritake Tsuda

IN MEMORIAM

Jan Bartholomeus Snellen

SAKAS DIARY OF A PILGRIM TO ISE

D.C. Holtom

ABSTRACTS OF ARTICLES

M. Izumikawa

第五十七卷（昭和十七年五月十五日）

昭和十六年十二月八日宣戦の詔を承給はりて皇軍のいち速

く立てし偉勲を称へて詠める歌

佐伯有義

倭姫命聖訓「慎莫怠」の含蓄と其成語の由来

加藤玄智

大國隆正の本学思想

小豆沢英男

出雲玉作湯神社と其御祭神

宮坂光次

吉見幸和の中世神道観

清原宣雄

蘭印の回教に就いて
和蘭の蘭印経営史

宮武正道

番匠の祖神に就いて

板沢武雄

高野正治兄を悼む

寺沢智了

會員伯爵徳川達孝、同陸軍大将河合操、同子爵阪谷芳郎三

閣下及同島連太郎大人を輓す

加藤玄智

Some Notes on the Life and Times of Shōtoku, Prince-Regent

of Japan

Annie Shepley Omori

第五十八卷（昭和十七年八月十日）

信州北佐久郡小沼村高山家後庭内奉安明治天皇生祠

加藤玄智

維新宏謨の顕揚

望月健夫

西行法師の歌集に就いて

伊藤嘉夫

支那刑法小史

仁井田陞

詩豪としての石川丈山

矢板 寛

宮古島の地史

大塚弥之助

明治天皇の御日常を偲びまつりて

奥村拓治

南方踏破の先覚真如法親王の御事蹟考

加藤精神

一科学者の見たる日本信仰観

佐藤定吉

張鼓峰戦闘の実相

尾高亀蔵

第五十九卷（昭和十八年七月三十日）

幕末民初に於ける闢邪思想の展開

前島 潔

《故白鳥故藤崎両理事追憶学術講演》

〔第一講〕支那思想と天文学

飯島忠夫

〔第二講〕南方の民族と宗教

宇野円空

〔第三講〕聖徳太子御撰勝鬘経義疏に就いて

花山信勝

《故白鳥故藤崎両理事追憶談》

（一）本会に対する白鳥藤崎二君の御功績

林博太郎

（二）藤崎の親類として見る故人と史学者白鳥博士

内ヶ崎作三郎

（三）藤崎白鳥二理事の人格を仰ぐ

加藤玄智

（四）藤崎白鳥両家を代表しての謝辞

白鳥 清

詩豪としての石川丈山（承前）

板橋 寛

第六十卷（昭和十八年十月三十日）

神宮文庫と勤皇運動

荒木田楠千代

神国意識の発展

大山公淳

幕末勤皇僧に観る日本精神

工藤康海

少年不良の主因——環境か性格か——

橋本勝太郎

詩豪としての石川丈山（承前完結）

矢板 寛

明治神宮献詠歌に就いて

——明治節御記念講演——

武島又次郎

満州国勢観

中山久四郎

ビルマの国情

山田秀蔵

【附記】

大正元年十一月三日、故加藤玄智博士を中心に設立された明治聖徳記念学会は、同二年三月に『明治聖徳記念学会紀要』第一巻を発行、ついで同九年三月六日に財団法人となったのを期に、第十三巻より『財団法人明治聖徳記念学会紀要』と題された。従つて正確には、『明治聖徳記念学会紀要』と『財団法人明治聖徳記念学会紀要』とが混在している。本目録では、戦後「復刊」された『明治聖徳記念学会紀要』と区別する意味で、「財団法人明治聖徳記念学会紀要総目録」と題したことをお断りしておく。

明治聖徳記念学会事務局